

山行報告 (進行順序は最後にまじめてあります)

1. 安達太良・東鴉川 (1975.8.2~3)

参加者: CL. i

8月2日晴。午後のバスで土湯温泉に行き、温泉街のすぐ上にある杉林の中でピクニック。

8月3日晴。早朝から絶行を開始する。まずいきなり連続する砂防ダムをのりこえる。土湯温泉の観光案内板に三階滝というのが記されてあったので、どんな滝かと期待しながら進む。しかし、沢筋はせまくて暗いというものの、滝はまったく出てこない。(三階滝とは砂防ダムによる人工の滝であることが後でわかった。土湯温泉バス停のすぐわきにある。)出てくるのは砂防ダムばかりである。下流から三つ目の砂防は右岸をまき、次のは左岸をまく。この砂防ダムによつてできたちよつとした淵の中には古い砂防ダムが犯っていた。更に砂防ダムを五つこえ、9時30分にようやく国道115号線にかかる東鴉川橋に達した。ここまで約4時間、澄らしたくない細い沢筋を一心に登るのみであった。気持をなごませてくれたものは、沢筋に多数生えているヤナギの木に、産卵にきたと思われる多数のコムラサキと、ゼフィロスの姿のみであった。

入谷前の情報では、東鴉川橋の上流には大きな滝があるということなので、気分をひきしめて再び登りはじめる。10時30分ようやく25mの大きな滝にぶつかり、全員歓声をあげる。狭い落ち口から未広がり、水が落下しているが、ホールドが多いためその大部分をシャワーライミングで突破(右岸)し、残りはブッシュ帯に入り込んで落ち口に降り立つ。落差は大きいため、高さに対する恐怖感をいだけてしまうのが最大の敵で、それさえなければ技術的に直登はむずかしくない。概して20mは左岸のシャワーライミングで突破する。こちらの方がホールドも多く楽である。あとはしばらく小滝が続いて、やがて10mくらいのナメが続いて小滝の連続する所をすぎ、崩下は終る。この先

しなうくはナメが長くつもあらわれる。そしてその両側にはマルバノモウセンゴケが白い小さな花をつけていた。やがて水も少なくなり東鴉川の深い切れこみの奥に、鉄山の岩場が望まれるようになるころ突如視界が開ける。そこはもう深流で、東鴉川の流れは細い水流でしかなく、ヤブの中に消えそうになりながら細々と流れていた。あとは権佐台と笹平を循り登山道に出て、箕輪山に登り、横河温泉に出て、大中に建った最終バスで福島に帰るだけであった。

東鴉川は鉄山に源をたぎって土湯温泉に至って、笹川に注ぐ沢である。上部は深い切れこみをもっているし、下流部も沢筋は暗いということなので期待していたのであるが、大きな滝は2つしかなく、ゴルジュもないので、ある意味では期待はずれであった。しかし最後に至ってシャワークライミングでの2つの滝の直登は、我々の気持を十分に満足してくれるものであった。なお、この沢の下流部はヤナギの木が非常に多く生えており、そこに集まるコムラサキの美しい姿や、深流に舞うビフィラスの姿は、我々登山者にはあまり縁のないことであっても、知っていてよいことである。またこの沢には、イワナやマスがすみ、多くの釣り人が入浴していることもついで覚えておく。

〈コースタイム〉

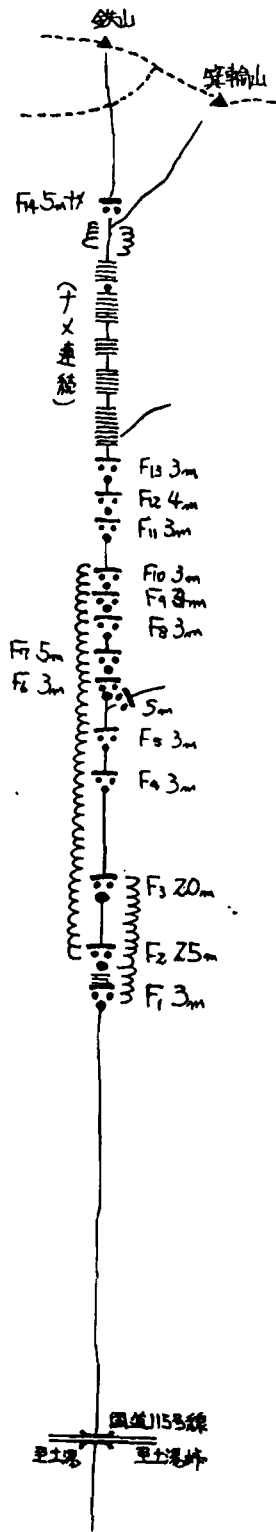
8月2日 福島(14.30)——土湯(15.35, 15.55)——草菅地(16.00)

8月3日 草菅地(5.46)——原鴉川橋(9.30, 9.40)——

—沢コース終点(12.00, 12.10)——笹平(12.25, 12.35)——

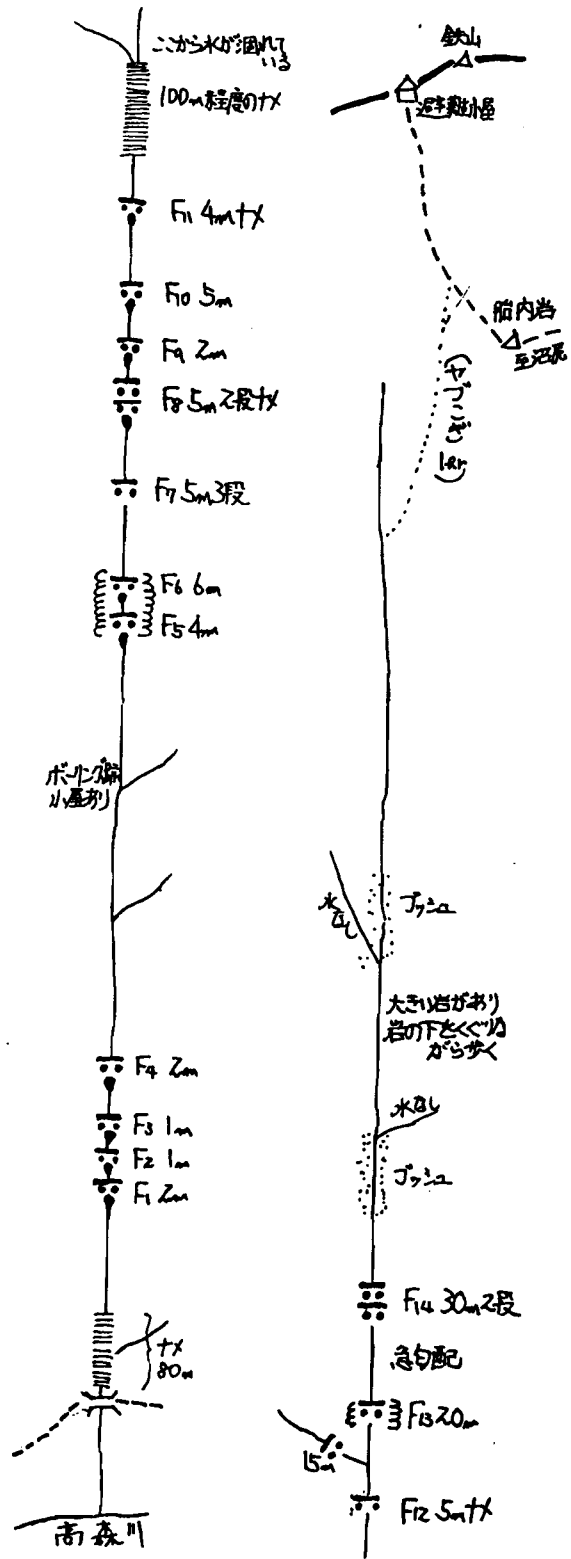
—箕輪山(13.50, 14.30)——横河温泉(15.40, 16.10)——

—福島(19.05)



東鴉川

(作図：西和文)



迷沢

(作図：加泉功)